

令和5年度 第9回 渋川市上下水道事業の経営に関する協議会 会議録概要版

開催日時 令和5年4月27日(木)午後2時から午後3時10分まで

開催会場 渋川市役所第二庁舎202会議室

出席者 渋川市上下水道事業の経営に関する協議会 委員9名

欠席委員 4名

事務局 15名

1 開 会 総務経営課総務企画係長

2 委嘱状交付 委員2名

3 挨拶 渋川市長

4 自己紹介 任期替えのため全員

5 議 題 議事進行：会長

(1) 渋川市の下水道事業の概要(改定の目安と時期について)

《資料1》

資料説明： 総務経営課長

* 出席委員から、汚水処理原価、改定率等の意見、質疑あり。

(2) その他

* 次回協議会を令和5年7月に開催したい。

6 その他

7 閉 会 総務経営課総務企画係

議題（１）下水道使用料の協議経過と今後の予定について

事務局	次第、資料に基づいて説明
委員	資料で２案の改定を示していただきましたが、案１の１０％程度とはどのような考えでの設定ですか。
事務局	本協議会でご検討いただきました水道料金は概ね１０％程度の改定が妥当ではないか、という案を示していただき、一昨年の令和３年９月に提言書を提出いたしました。そちらと大体同じ割合の、１０％という検討案をあげさせていただきました。
委員	ストックマネジメントの計画について、グラフを見ると先の４０年間程度の中で、事業費がおよそ２００億円あると思います。交付金の１００億円を失わないように料金改定をすることが、基本料金の増額を抑えることにもつながるのですか。
事務局	２年後に国交省の３基準を満たさなければならないので、そちらを達成できればと考えています。今後のストックマネジメント計画につきまして、国交省からの各種補助金や借り入れ等を含めつつ、コストダウンを図るためにできるだけスケールダウンをしていければと考えています。
会長	今の質問の意図として、ストックマネジメントのことを考えて数字を出した方がいいということですか。
委員	はい。そういった視点もあっていいと思います。
会長	今の協議会は比較的短期、中期くらいの見通しの中での話ですが、もっと長い視点での考えも必要だと思います。

社会資本整備総合交付金は、様々な社会インフラに対して国交省の管轄から出ているお金という認識でよろしいですか。

事務局

はい。当局は主に、下水道事業管渠の工事に活用しています。

会長

渋川市において、国交省からいただいた分と合わせて予算が約50億円になりますがどのように活用されていますか。また、下水道事業に関してはどのくらいここから支出されていますか。

事務局

こちらの約50億円は、すべて管渠整備に充てた事業費となりますので市全体はもっと高額になります。

会長

全体としての金額はどのくらいになりますか。

事務局

今手元に資料がないためお調べします。

会長

使える予算が半分になるリスクがこの先ある、ということは間違いないのですか。

事務局

はい。社会資本整備総合交付金の49億2千万円は、管渠の新規整備分の積み上げになります。

会長

改定自体は待ったなしと感じます。問題は、どのくらいの上げ幅を市民の皆さんにお願いするかという点になると思います。
事務局側から改定案2のほうがいいと話がでてるのは、10%程度の改定だとこの先もたないという危機意識があると理解してよろしいですか。

事務局

現状、下水道事業は一般会計から法定外繰入金という事業の赤字補填として年間約8億6千万円お預かりしています。下水

道事業は公営企業会計を適用しているもので、こちらの額は市民の皆さんからお預かりする下水道使用料で賄っていくべきものになります。市の税金の一般財源から、年間約8億6千万円いただいている運営状況は健全とはいえないため、できる限りの縮減をするために使用料を改定して事業運営を改善していきたいと考えています。

会長

7ページ中段の表を見ると、10%の改定を行った場合の繰入金金の縮減幅が、今年だと5千万円くらいしか縮まないということですか。

委員

5千万円くらいですと、建設費の物価が上がってきていますのでそれに充てるだけになると思います。

会長

今後の物価上昇は緩やかになると予想されていますが、簡単に下がらないことを考えると、10%程度の改定では焼け石に水という感じを受けます。もちろん、料金を改定したという事実は残るので、交付金の要件を達成できることになります。

下水道は、上水道と比べると収入と支出の差が激しいので改定案2の方がいいという印象があります。

委員

私の経験上、下水道は建設費より維持費がかかります。以前の話になりますが、榛名湖の特環下水で2千万円の収入を得るのに費用が4千万円かかり、ほかの施設の維持管理がままならなくなっていました。渋川市の場合も、農業集落排水を見ていただくとわかると思います。電気、動力の設備を使用している場合が多く、業者に委託していても業者も企業なので費用も上がりますので、施設があればあるほど維持管理費がかかります。

事務局

はい。昨年の9月以降の、電気料、動力費は1.3倍から1.

	5倍の支出を求められています。動かざるを得ない施設なので、経営状況を勘案しながら運転をしている状況であります。
会長	コストを小さくなるようコントロールしていただき、改定案としては2ということによろしいでしょうか。
委員一同	(了承)
委員	3ページの汚水処理原価について、渋川市が一番安くなっていますが、今後この数値は上がっていきますか。
事務局	汚水処理原価について、現状の処理量と施設数を考えますとこれ以上上げるのは厳しいと考えます。
委員	使用料単価が上がらないと、経費回収率が下がってしまうということですか。
事務局	はい。経費回収率は県内最低値になっています。
会長	汚水処理原価が小さい理由として、県に接続したりしてコスト自体が低くなっている証左だと思います。その意味では、公共下水道に関しては渋川市は経営努力していると思います。
事務局	このグラフは公共下水道に限定しており、比較的接続の割合等はいい状況と考えています。
委員	各自治体の置かれている状態の違いが、こういったグラフになっているのだと思います。
会長	公共下水道でうまくいっている分、料金は適正なものをもら

	い、後は山間部をどうしていくかになると思います。
委員	農集排が一番の問題だと思います。
会長	その辺は、長期的な問題になってくると思います。まずは、一般の下水道に関して、渋川市は他市と比較するとギャップが大きいのでそれを埋めて少しコストが下がり使えるお金が増えれば、山間部に投入して徐々に整備していくことに使っていくと思います。
委員	先に山間部を考えた方がいいと個人的に思います。
会長	本協議会は下水道料金に関する事なので、その辺りは市のプランとして参考にさせていただければと思います。
委員	一気に30%の改定より10%くらいにしておき、様子を見て改定するのがいいと思います。
会長	<p>上げ方について、数字を決めることはしなくてもいいと思います。まずは料金を上げる。それから上げ幅として、市民の方には申し訳ないけれど意味のある料金改定ということで30%ぐらい上げるのがいいと思います。</p> <p>細分化という案も同時に出ていますが、使用する方々の意識によって上げ幅の影響を抑えることができるプランなので望ましいと思います。そう考えると、概ね改定案2を修正することなく適用するのがいいと思いますがよろしいですか。</p>
委員一同	(了承)
委員	今年度に水道料金の改定ができなかったため、令和6年に水

	<p>道料金を上げて、7年で今度は下水道使用料を上げて、次年度に下水道使用料をさらに20%上げるのは大変だと思います。しかし、ここまでの協議の結果仕方のないことだと感じました。</p>
会長	<p>そういった意味では、上水道の料金を上げられなかったのは本協議会としては残念に感じます。</p>
委員	<p>現状経費回収率が61%と低い中で、市として80%欲しいという思いがあると思います。例えば、持続可能な運営をするには経費回収率80%が必要ということを提言するのはどうでしょうか。県内平均などを見ていった中で、経費回収率80%は必要であり段階的に上げて行かざるを得ないと感じました。</p>
事務局	<p>経費回収率80%を目指していきたいと考えています。しかし、ここ数年の社会情勢等を勘案すると非常に厳しいと思い、資料1に改定案1、2をご提示させていただきました。今後検討いただきます提言書には、ベースとする改定案のほかに協議会の提言として経費回収率80%が必要であると、二段階的な表現で記載させていただくのでよろしいですか。</p>
会長	<p>提言書では改定案2を軸に、下水道事業の健全化という意味で経費回収率を80%を目指すのが望ましい、という内容も書き込んでいただければと思います。</p>

議題(2) その他

事務局	<p>本日は、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。次回の会議の日程ですが、7月の中旬から下旬ごろに開催させていただければと思います。</p>
-----	--